

## ファースト・ステップ 3

### 福音とは？

英語のGOSPELは福音、「良い知らせ」という意味です。何の知らせでなぜ良い知らせなのでしょう？まず悪い知らせから聞いていきましょう。

このような話を想像してみてください。

あなたの家に来客が来ます。あなたは喜んでゲスト（来客）を迎えたいと思っていますが、ジレンマがあります。その来客が泥まみれのブーツで家に入ってくるのです。その人が日本人の「家を綺麗にする」繊細さに気づいていないか、あるいは気にしていないかは明白です。



考えましょう：あなたはその来客に靴を脱ぐように頼みますか？

その来客に靴を脱ぐように親切に頼むことは、自然なことです。来客が、靴を脱がずに靴から泥を拭き取ろうとしたとしても十分ではありません。あなたはきっと外からの不潔なものを家に入れたくないと主張することでしょう。

この話は、神がどのように私たちが扱われるかと似ています。神様は、（あなたを含む）全ての人が「人生」、あるいは「生活」の中で清くない部分を持っているにも関わらず、その全ての人をご自身との関係に招いておられます。泥だらけの靴で家に入ることが失礼であるのと同じように、私たちの中にある汚い部分は「完全」かつ「清い」神にとって不敬なものです。聖書は私たちが自分自身の能力で心を清くすることは出来ないと言いそしてこの汚さを「罪」と呼んでいます。

### 人類の問題とは何？ 罪



#### 箴言 20章9節

だが、「私は自分の心をきよめた。私は罪からきよめられた」と言うことができよう。



#### ローマ人への手紙 3章23節

すべての人は、罪を犯したので、神からの栄誉を受けることができず...

日本語で「罪」という言葉は、私たちに「犯罪」を連想させるでしょう。なので、皆さんは、「私は盗んだり、人を殺したりするような犯罪を犯したことはない」と考えるかもしれませんが。しかし、罪はただ単に人間が作った法律を破るということではなく、神の完全なる「清さ」、「完全さ」そして「律法」に沿って生きることに失敗することです。

神の律法の例が、**出エジプト記 20章**に書かれています。



ほかの神々があってはならない  
偶像を造ってはならない  
主の御名を、みだりに唱えてはならない  
安息日を覚えて、これを聖なる日とせよ  
父と母を敬え  
殺してはならない  
姦淫してはならない  
盗んではならない  
偽りの証言をしてはならない  
あなたの隣人の家を欲しがってはならない

イエスも神の律法をこのようにまとめられました。



#### マタイによる福音書 22章37～39節

そこでイエスは彼に言われた。「『心を尽くし、思いを尽くし、知力を尽くして、あなたの神である主を愛せよ。』これがたいせつな第一の戒めです。『あなたの隣人をあなた自身のように愛せよ。』という第二の戒めも、それと同じようにたいせつです。

つまり、「神を愛し、人を愛する」ということです。



考えましょう：あなたはこれら全ての律法に従っていますか？

もしあなたが正直なら、少なくとも神の律法の一つは破ったことがあると認めるでしょう。一つの律法を破っても、神の目からすると全ての律法を破ったのと同じほど有罪です。神の律法を破れば、私たちは汚れています。



### ヤコブの手紙 2章10～11節

律法全体を守っても、一つの点でつまずくなら、その人はすべてを犯した者となったのです。

聖書は、神の律法が私たちの行動にだけ適用されるわけではなく、心にも適用されると教えています。イエスの3年間の宣教活動の際に出会ったユダヤ人宗教指導者たちは、神の律法を守ることに非常に長けていました。しかしながら、彼らの心は神から遠く離れていました。イエスはある時、彼らにこのように話されました。



### マタイによる福音書 23章27～28節

わざわざ。偽善の律法学者、パリサイ人。お前たちは白く塗った墓のようなものです。墓はその外側は美しく見えても、内側は、死人の骨や、あらゆる汚れたものがいっぱいです。

イエスはこのようにも言われました。



### マタイによる福音書 5章21～22節

昔の人々に、「人を殺してはならない。人を殺す者はさばきを受けなければならない。」と言われたのを、あなたがたは聞いています。しかし、私はあなたがたに言います。兄弟に向向かって腹を立てる者は、だれでもさばきを受けなければなりません。兄弟に向向かって「能なし」と言うような者は、最高議会で引き渡されます。

イエスは、この問題の核心は心の問題だと教えられました。

結論：私たちにはみな罪があります。

## 罪の対価は何か？ 死



考えましょう：あなたは今まで、死んだ後どうなるか考えたことがありますか？

聖書は、私たちが死んだ後何が起きるか明確に答えています。



### ローマ人への手紙 6章23節

罪から来る報酬は死です。

脚注：ローマ 6章23節での「死」は身体的な死を意味しているだけではなく、「永遠の死」（神との永遠の断絶）も意味しています。

罪は私たちが神から引き離します。



### イザヤ書 59章2節

あなたがたの咎が、あなたがたと、あなたがたの神との仕切りとなり、あなたがたの罪が御顔を隠させ、聞いてくださらないようにしたのだ。



死のあと私たちは審判を受けます。



### ヘブル人への手紙 9章27節

そして、人間には、一度死ぬことと死後にさばきを受けることが定まっている。

生まれ変わりはありません。死んだあと、2度目のチャンスはありません。私たちが死んだとき、罪に対して判決を下されます。

読むのがつらいですが、これは地獄という神なしの永遠はどのようなものかを表す大切な箇所です。



### テサロニケ人への手紙第二 1章8～9節

そのとき主は、神を知らない人々や、私たちの主イエスの福音に従わない人々に報復されます。そのような人々は、主の御顔の前とその御力の栄光から退けられて、永遠の滅びの刑罰を受けるのです。

## 良い知らせ

「良い知らせ」とは、神が、人となり、完璧な人生を生き、私たちの罪のために死に、神と和解するために死からよみがえられたひとり子イエスを遣わされたことです。



### ローマ人への手紙5章8節

しかし私たちがまだ罪人であったとき、キリストが私たちのために死んでくださったことにより、神は私たちに対するご自身の愛を明らかにしておられます。

イエスが私たちの罪の代価（死）を支払われたので、私たちは赦され、私たちのすべての罪は洗い流されました。聖書は、イエスの血が私たちを罪から聖めてくださると教えています。



### 第一ヨハネの手紙1章7節

御子イエスの血はすべての罪から私たちがきよめます。

イエスの死とよみがえりは私たちを私たちの罪から聖めるだけでなく、神の御前で義としてくれます。



### ローマ人への手紙4章24～25節

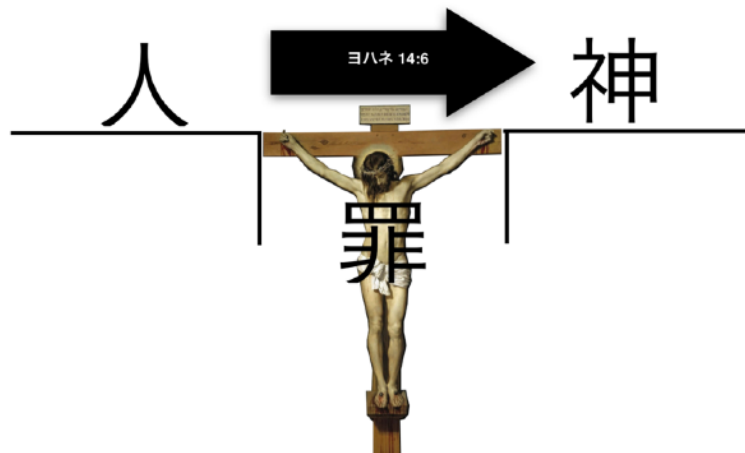
私たちの主イエスを死者の中からよみがえらせた方を信じる私たちも、その信仰を義とみなされるのです。主イエスは、私たちの罪のために死に渡され、私たちが義と認められるために、よみがえられたのです。

神への唯一の道は、イエス・キリストを通してです。



### ヨハネの福音書14章6節

イエスは彼に言われた。「わたしが道であり、真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれひとり父のみもとに来ることはありません。



イエスなしでは私たちは有罪です。それは私たち自身が汚れており、地獄へ行くことが定められていることを意味します。イエスを通して、私たちは罪の赦しを受けます。それは私たちが神の御前で義とされ、天国で永遠の命を得ることを意味します。



### ローマ人への手紙6章23節

罪から来る報酬は死です。しかし、神の下さる賜物は、私たちの主キリスト・イエスにある永遠のいのちです。



考えましょう：人々が、イエス・キリスト抜きで自分自身の罪や罪悪感に対処しようと思う方法にはどのようなものがありますか

真理は、完全に清く、聖なる神の御前に私たちが立てるほど十分に善い行いをすることが出来ないということです。私たちは、自分自身が犯した悪いことを打ち消せるほど善い行いをすることは絶対にできません。唯一の希望は、イエスが私たちにしてくださったことにより頼むことです。それは、私たちが無償で受け取ることが出来る贈り物なのです。

## 神の贈り物をどうやって受け取ることができるのか？



### エペソ人への手紙2章8～9節

あなたがたは、恵みのゆえに、信仰によって救われたのです。それは、自分自身から出たことではなく、神からの賜物です。行ないによるものではありません。だれも誇ることはないためです。

罪の赦しと永遠の命という無償の贈り物は、イエス・キリストを信じる信仰を通してのみ受け取ることが出来ます。他のどのような方法であっても、救いを手に入れることはできません。それは信仰を通してのみ受け取ることが出来る神からの贈り物なのです。



### ローマ人への手紙10章9節

なぜなら、もしあなたの口でイエスを主と告白し、あなたの心で神はイエスを死者の中からよみがえらせてくださったと信じるなら、あなたは救われるからです。

あなたの「主」としてイエスに信仰をおくとは、他のものへの献身や忠誠を否定することです。このことは、生活の中の罪や、偽りの神々、他の宗教、自己義認を追い求めることなどと戦い続ける行動で実践されます。むしろクリスチャンは何よりもイエスを愛し、イエスを追い求めます。

イエスは、私たちが生活や人生のあらゆることをイエスよりも優先し、本来ならイエスがいるべき地位に置いてしまうことを知っておられます。「主」としてイエスに従うとは、他の何よりもイエスに忠実であるということです。全ての領域で、例えば、仕事、教育、人間関係、家庭においてイエスを敬い、イエスに付き従うのはイエスへの「服従」「従順」から出てくるものです。クリスチャンとして、私たちはイエスに従うので家族を愛するのです。もし、クリスチャンでない家庭に一人でもキリストに従うクリスチャンが生まれると混乱と反発が生じることがあります。しかし、このレッスンで共に学んできた「罪」「死」「裁き」「救い」について聖書にあるイエスの教えは真実なので、あなたが家族に出来る最も愛ある行動は、あなた自身がイエスに従い、家族のメンバー全員にイエスのことを分かち合うことです。



考えましょう：あなたは救いという無償の贈り物を受け取る準備ができていますか？以下の質問を通して、あなた自身が神へ向かう旅のどの地点にいるか考えてみましょう。

あなたは自分が罪人で、イエスが必要だと信じますか？

イエス・キリストは唯一真の神の子であると信じますか？

イエスはあなたの罪の代価を支払い、あなたを救うために死んだことを信じますか？

イエスが死からよみがえったことを信じますか？

イエスをあなたの主、そして救い主として信仰によって告白する準備ができていますか？

悔い改め、バプテスマを受け、イエス様と共に新しい人生を歩みたいですか？

---

ファースト・ステップ：ステップ4に備えるために、今週時間を取って少し予習してみましょう。もし時間があれば、「マルコによる福音書」と「ローマ人への手紙」を読んで、イエスについてさらに読み進めてみましょう。